

## 将来のまちの姿

（仮）変化し続け、持続可能な都市として成長するまち

## 都市構造

○第8次豊田市総合計画における都市構造の基本的な考え方

『コンパクト+ネットワーク※』を継承

※地域ごとの特性に応じて都市機能又は生活機能を集約すべき箇所を『拠点』、拠点の相互連携を強めるための公共交通や道路を『ネットワーク』として設定

## 都市構造の実現に向けた方針

- 居住** 拠点への更なる機能集積により地域の活力と魅力を向上
  - ・コンパクト+ネットワークの深化、拠点間の交流促進、地域の活性化
- 産業** 既存インフラを生かした産業集積による競争力強化
  - ・基幹産業の更なる発展とものづくり拠点としての強固な基盤を確立
- 移動** ヒト・モノの移動に欠かせない交通ネットワークの強化
  - ・広域な都市間・市内の拠点間の移動に係る連携機能を強化
- 自然** 豊かな自然の保全・維持、次世代への継承
  - ・貴重な地域資源である森林・里山等の環境を保全、優良農地を維持
- 防災** 激甚化・頻発化する自然災害に対応する防災まちづくりの推進
  - ・災害リスクに対応するための防災・減災対策の推進



本市の魅力とポテンシャルを最大限に引き出すため  
既存のインフラや都市機能等を徹底的に利活用

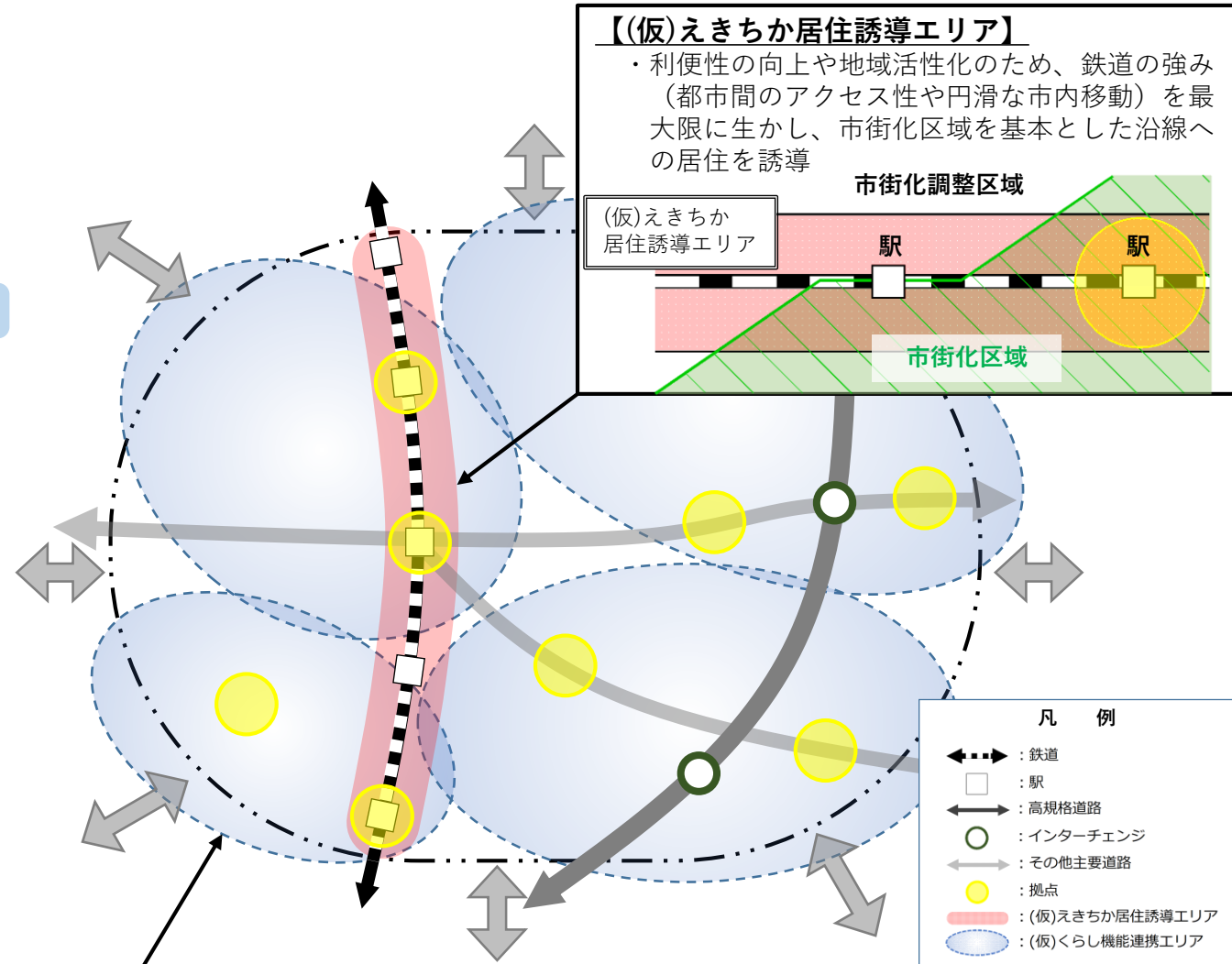
### 居住の新たな視点

○鉄道のポテンシャルを生かし、駅の立地特性に応じて居住を誘導  
鉄道沿線に『（仮）えきちか居住誘導エリア』を設定

○暮らしに必要な生活機能等を拠点間で連携  
各地域に『（仮）暮らし機能連携エリア』を設定

## 都市構造のイメージ

- 《居住》・拠点への都市機能・生活機能の集積
- 《産業》・インターチェンジ周辺等、利便性が高い地域へ産業の集積・強化
- 《移動》・ヒト・モノの安定的かつ効率的な移動を実現する交通ネットワークを強化
- 《自然》・農林漁業振興と調和したメリハリのある土地利用を推進
- 《防災》・災害リスクを踏まえた土地利用の推進



### 【（仮）暮らし機能連携エリア】

・将来に渡って安心して暮らし続けることが出来るよう、暮らしに必要な都市・生活機能を拠点間で連携するとともに、デジタルの効率的な活用によりエリア単位で機能を確保

